

# 2024年度 第3四半期決算説明

2025.2.6

コスモエネルギーホールディングス株式会社

# 目次

---

## 2024年度第3四半期決算 ハイライト

---

### 企業価値向上への取組み

P. 2-11

- 株主還元
  - 成長に向けたNew領域の拡充
  - Oil領域の収益力確保
- 

### 2024年度第3四半期決算の概要

P. 12-18

---

# 第3四半期決算ハイライト

# 2024年度 第3四半期決算 ハイライト

## 2024年度 第3四半期決算

- 石油事業における実質的なマージン環境が堅調に推移し、在庫影響を除く経常利益は1,167億円（前年差+117億円）  
在庫影響除き当期純利益は567億円（前年差+55億円）となり、第3四半期としては共に過去最高益を更新

## 2024年度 通期決算の見通し

- 経常利益は在庫評価損の影響もあり通期計画並みを想定
- 一方で在庫影響を除く経常利益は石油事業および石油開発事業の堅調な業績が牽引し、計画を上回る見通し

## 2024年度 株主還元

- 順調な業績を背景に追加の株主還元を実施
- 単年度で総還元性向60%に相当する還元を予定（次ページ以降詳細）

				単位：億円	
	2024年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年差	2024年度 通期計画	
1	経常利益	975	1,136	▲ 161	1,650
2	当期純利益	433	572	▲ 139	790
3	(在庫影響)	▲ 192	86	▲ 278	50
4	在庫影響除き経常利益	1,167	1,050	117	1,600
5	在庫影響除き当期純利益	567	512	55	755
6	トバイ原油価格 (\$/B)(4-12月)	79	83	▲ 4	85
7	為替レート (¥/\$)(4-12月)	153	143	10	145
	2024年度 第3四半期	2023年度 通期実績	前期末差	2024年度 通期計画	
8	自己資本 ※	5,869	6,012	▲ 143	6,300
9	自己資本比率	25.7%	27.2%	▲ 1.5%	27.2%
10	ネットD/Eレシオ (倍)	0.90	0.83	0.07	0.89

※2024年度通期計画には、追加の株主還元による自己資本の減少を含めていない

企業価値向上への取組み  
株主還元

## 2024年度の株主還元について

- 2024年度年間配当を**30円増配**し、1株当たり**330円**（中間150円、**期末180円**（予定））とする
- 取得総額**180億円**を上限とする**自社株買い**を実施する  
（24年12月末時点の発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 3.52%）
- 2024年度の総還元性向は60%以上を実現する見込み

### 2024年度 計画

1	当期利益（在庫影響除き）	755億円
2	<b>1株あたり配当</b>	<b>330円</b>
3	（配当単価 中間）	150円/株
4	（配当単価 期末）	180円/株
5	<b>配当総額</b>	<b>283億円</b>
6	<b>自己株取得額</b>	<b>180億円</b>
7	総還元額	463億円
8	配当性向	38%
9	<b>総還元性向</b>	<b>61%</b>

※ 配当総額は中間配当支払総額（実績）、期末配当支払総額（予定）の合計。

期末配当は、1株あたり期末配当×24年12月末時点の支払対象の株式数（180円×24年12月末時点の88,353,761株- 自己株式数 3,033,424株）。

なお、本日以降に実行する自己株取得（180億円）により、実際の支払額は減少する見込み。

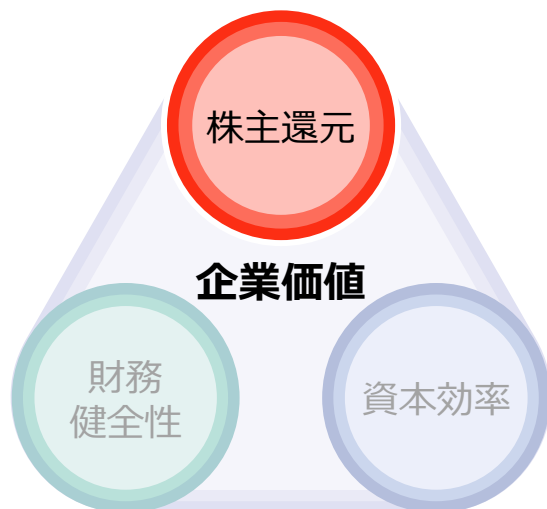
# 中計期間中の還元方針について

- 中計期間中の下限配当を300円から330円へ引き上げる
- 堅調な収益をベースとした財務健全性の強化、高い資本効率の維持および還元強化による「三位一体の資本政策」を実現

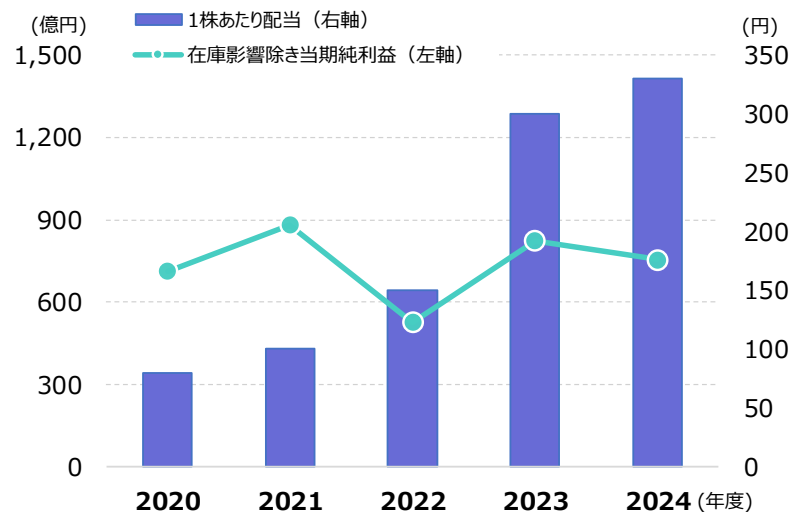
## 三位一体の資本政策

- 総還元性向 **60%**以上※
- 配当 **330円/株**  
(下限 **330円**以上)

※ 財務健全性目標達成時に追加還元実施



## 在庫影響除き当期純利益、配当の推移



在庫影響除き当期純利益 (億円)	714	883	528	824	755
1株あたり配当 (円)	80	100	150	300	330
自己資本 (億円)	3,249	4,562	5,279	6,012	6,300
ネットD/Eレシオ (倍)	1.59	1.04	1.10	0.83	0.89
在庫影響除きROE (%)	25.3	22.6	10.7	14.6	12.3

企業価値向上への取組み  
成長に向けたNew領域の拡充



# 企業価値向上への取り組み ～成長に向けたNew領域の拡充/次世代エネルギー～

- 2024年12月にSAFの製造設備が完工、2025年度から複数のエアラインへの供給開始を予定しており、国内初となる国産SAFサプライチェーンの構築が実現
- 水素ステーション2号店は2024年度中の完成、2025年3月の開所に向けて順調に進捗

## 日本初の国産SAF量産化

### 廃食用油を原料としたSAF

収集



廃食用油収集  
排出元開拓

製造



事業全体統括  
装置設計・建設



用地・用役提供  
運転、製品混合

- 2024年12月に堺製油所内のSAF製造設備が完工

販売



空港への搬入、エアラインへの販売



- 複数のエアラインに対して、2025年度から国産SAFの供給を開始

## 水素ステーション

- 2023年2月 ● コスモ石油マーケティングと岩谷産業社との間で岩谷コスモ水素ステーション合同会社を設立  
水素ステーション1号店の開所計画を公表

- 12月 ● 都用地2ヶ所で水素ステーション整備  
事業者を選定

- 2024年4月 ● 水素ステーション1号店を開所



開所式

平和島

- 2025年3月 ● 水素ステーション2号店を開所(予定)



有明

# 企業価値向上への取り組み ～成長に向けたNew領域の拡充/グリーン電力～

- 陸上風力のリプレース案件（新むつ小川原、新岩屋）が2024年度内に運転を開始予定
- 堺市立全学校・上下水道施設に新たに再エネ100%電力を供給開始するなど、コスモでんきビジネスグリーンの導入施設が3,500施設超に拡大



## 風力発電

ステータス	プロジェクト名称	設備容量	運転開始予定時期
<b>運転中の合計</b>		<b>約283MW</b>	
建設中	新むつ小川原（青森県）	約33MW	2024年度
建設中	新岩屋（青森県）	約27MW	2024年度
開発中	遠州（静岡県）	約6MW	2025年度
建設中	あぶくま南1期（福島県）	約35MW ※1	2025年度
建設中	あぶくま南2期（福島県）	約54MW ※1	2026年度 下期
開発中	中紀第2（和歌山県）	約39MW	2026年度 下期
開発中	波崎（茨城県）	約15MW	2027年度
開発中	島牧（北海道）	約95MW	～ 2030年度
開発中	横浜町（青森県）	約56MW	～ 2030年度
開発中	会津若松（福島県）	約50MW	～ 2030年度
開発中	北檜山（北海道）	約52MW	～ 2030年度
開発中	野牛（青森県）	約129MW	～ 2030年度
<b>建設中、開発中の合計</b>		<b>約591MW ※1</b>	
<b>その他開発中のプロジェクト</b>		<b>約26MW</b>	
<b>陸上サイト合計</b>		<b>約900MW</b>	

ステータス	プロジェクト名称	設備容量	運転開始予定時期	再エネ海域利用法区域
運転中	秋田港・能代港	約140MW ※1		港湾区域 ※3
開発中	北海道石狩湾沖（北海道石狩市沖）	最大1,000MW ※1,2	2030年度～	有望な区域
開発中	北海道島牧沖（北海道島牧沖）	最大1,000MW ※1,2	2030年度～	有望な区域
開発中	北海道檜山沖（北海道檜山沖）	最大1,000MW ※1,2	2030年度～	有望な区域

※1 プロジェクト全体の設備容量 ※2 環境影響評価書記載の最大容量 ※3 港湾区域のため再エネ海域利用法の対象外



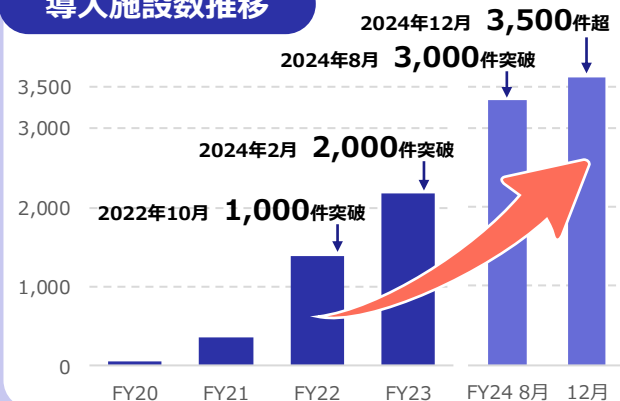
## グリーン電力販売

### コスモでんきビジネスグリーン

#### ● 2024年度の主な取り組み

- 堺市立全学校・上下水道施設へ新たに再生可能エネルギー100%の電力を供給開始
- 足立区の全区立小中学校へ再生可能エネルギー100%の電力を供給開始
- 藤沢市の87の公共施設に廃棄物発電による電力供給開始

#### 導入施設数推移



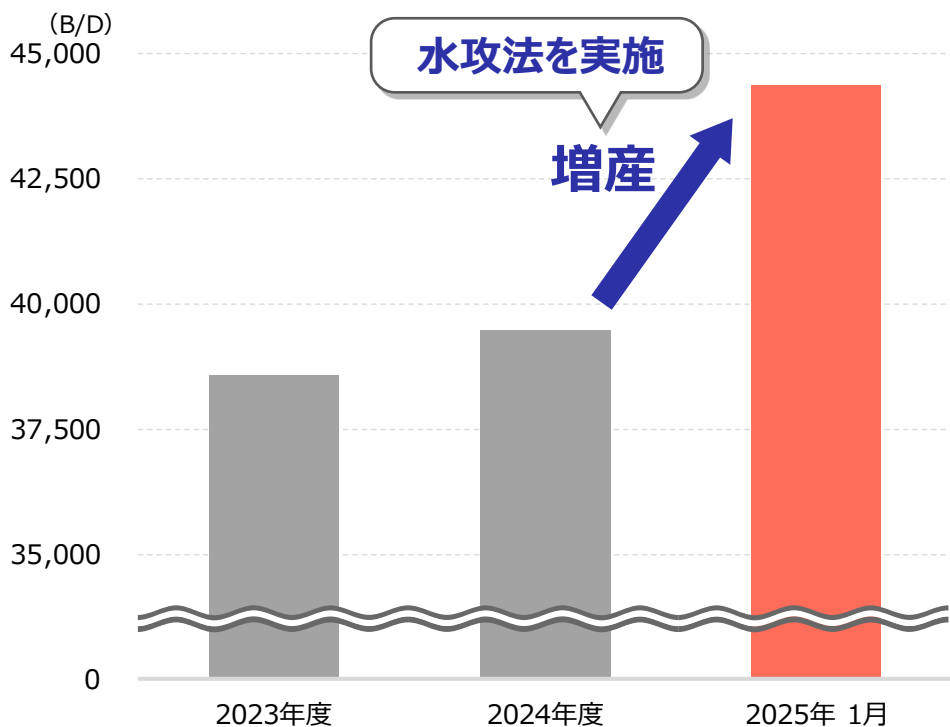
企業価値向上への取組み  
Oil領域の収益力確保

# 企業価値向上への取り組み ～Oil領域の収益力確保/ハイル油田増産～

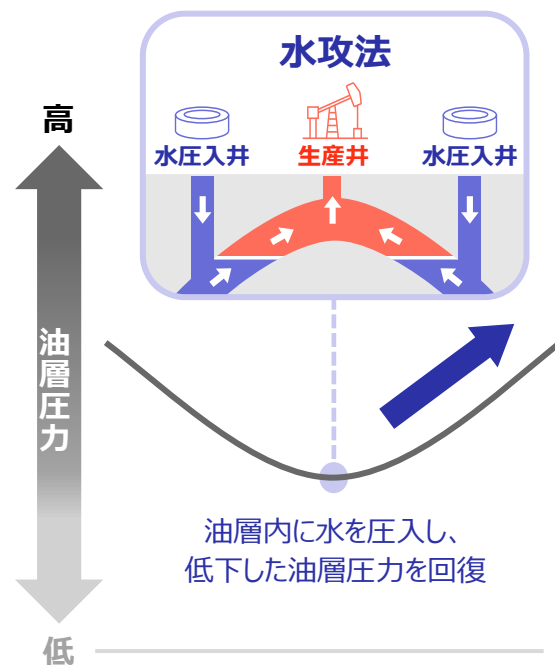
- 2019年度以降、想定よりも油層の圧力が低下したため生産を一部制限。水攻法による油層圧力回復に成功
- 生産制限を解除し、12月末から本格的に増産開始。今後も増産継続へ



## 合計生産量



## 油層圧力の推移



## 第3四半期決算の概要

# 2024年度 第3四半期決算レビュー

- 在庫影響を除いた連結経常利益は1,167億円
- 在庫影響 ▲192億円により、連結経常利益は975億円
- 在庫影響を除く当期純利益は567億円

## 石油事業

在庫影響除き経常利益

**593億円** (前年差 +78億円)



堅調な国内マージンにより増益

## 石油化学事業

経常利益

**▲49億円** (前年差 ▲12億円)



エチレンを中心に引き続き市況は低迷

## 石油開発事業

経常利益

**528億円** (前年差 +35億円)



円安影響などにより増益

## 再生可能エネルギー事業

経常利益

**▲0億円** (前年差 ▲14億円)



風況の悪化などにより減益

# 【2024年度 第3四半期】 連結損益の概要 前年差

単位：億円

		2024年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年差	2024年度 通期計画
1	売上高	20,384	20,132	252	32,000
2	営業利益	881	1,017	▲ 136	1,540
3	営業外損益	94	119	▲ 25	110
4	経常利益	975	1,136	▲ 161	1,650
5	特別損益	▲ 63	▲ 13	▲ 50	▲ 60
6	法人税等※1	406	488	▲ 82	706
7	非支配株主に帰属する当期純利益※1	73	63	10	94
8	親会社株主に帰属する当期純利益※1	433	572	▲ 139	790
9	在庫影響	▲ 192	86	▲ 278	50
10	在庫影響除き経常利益	1,167	1,050	117	1,600
11	原油価格（ドバイ）（\$/B）(4-12月)	79	83	▲ 4	85
12	為替レート（¥/\$）(4-12月)	153	143	10	145
【ご参考】					
13	原油価格（ドバイ）（\$/B）(1-9月) ※2	83	80	3	83
14	為替レート（\$/B）(1-9月)	151	138	13	146
15	トッパー稼働率（CDベース）※3	84.9%	84.8%	0.1%	91.4%
16	トッパー稼働率（SDベース）※3,4	95.1%	93.9%	1.2%	99.5%

(※1) 四半期税金費用の計算方法の変更に伴い、前年度法人税等および当期純利益を変更

(※2) 石油開発事業の指標価格となるICEマーバン原油価格は2ヶ月前のドバイ価格を参照してアクセスされるため、2ヶ月前のドバイ原油価格を参考として記載  
例) 通期決算（1-12月）の場合、前年11月～当年10月のドバイ原油価格平均を記載

(※3) 当社（3製油所合計）の稼働率（※4）SD：定期整備等の影響を除いた稼働率

## 2023年度 第3四半期 (※1参照用)

		【今回】	【前年公表】	前回差
6	法人税等	488	601	▲ 113
7	非支配株主に帰属する当期純利益	63	63	0
8	親会社株主に帰属する当期純利益	572	458	114

# 【2024年度 第3四半期】 連結経常利益の概要 前年差

単位：億円

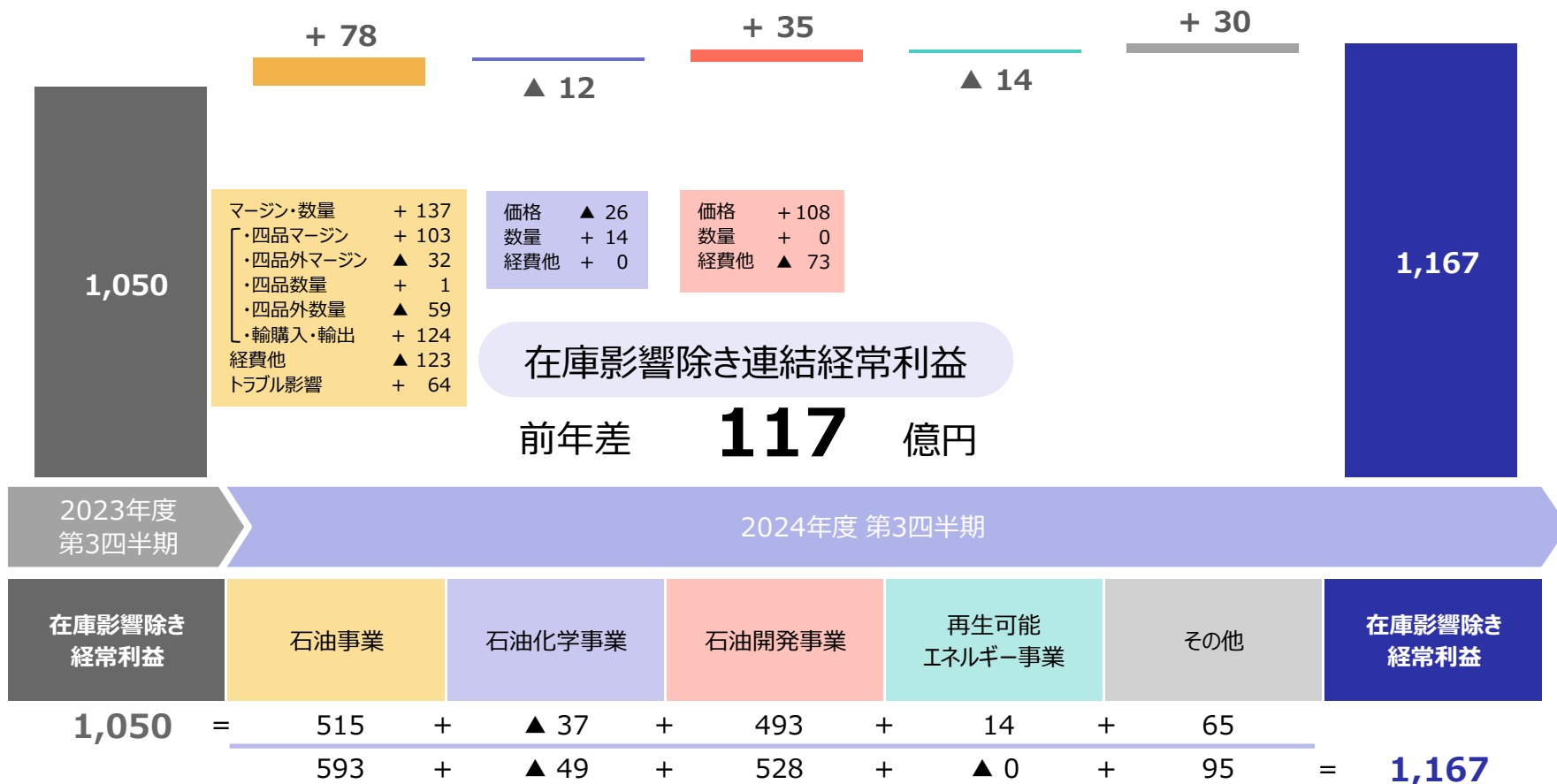
		2024年度 第3四半期		2023年度 第3四半期		前年差	
		経常利益	在庫影響除き 経常利益	経常利益	在庫影響除き 経常利益	経常利益	在庫影響除き 経常利益
1	連結	975	1,167	1,136	1,050	▲ 161	117
2	石油事業	401	593	601	515	▲ 200	78
3	セ グ メ ン ト 別	石油化学事業	▲ 49	▲ 37		▲ 12	
4		石油開発事業 (※1)	528	493		35	
5		再生可能エネルギー事業	▲ 0	14		▲ 14	
6		その他 (※2)	95	65		30	

(※1) 操業会社 (アブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発) は12月決算 (※2) 連結処理値を含む



# 【2024年度 第3四半期】 連結経常利益（在庫影響除き） 前年差

単位：億円



# 【2024年度 第3四半期実績】連結貸借対照表の概要

## 連結貸借対照表

単位：億円

	実績 (2024年12月末)	実績 (2024年3月末)	増減
1 総資産 (※1)	22,874	22,126	748
2 純資産 (※1)	7,200	7,274	▲ 74
3 自己資本 (※1)	5,869	6,012	▲ 143
4 自己資本比率 (※1)	25.7%	27.2%	▲ 1.5%
5 ネット有利子負債 (※2)	5,258	5,010	248
6 ネットD/Eレシオ (倍) (※1)	0.90	0.83	0.07

(※1) 法人税等に関する会計基準の改正を2024年度第1四半期より適用、これに伴い2024年3月末の純資産などが変更

(※2) 有利子負債総額から現預金等を控除したもの

# 【2024年度 第3四半期実績】連結設備投資の概要

## 設備投資・減価償却費

単位：億円

	2024年度 第3四半期	前年差
1 設備投資	691	153
2 減価償却費	424	12

## 設備投資 セグメント別

単位：億円

	2024年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年差
1 石油事業	362	285	77
2 石油化学事業	152	61	91
3 石油開発事業	45	133	▲ 88
4 再生可能エネルギー事業	99	63	36
5 その他・調整額	33	▲ 4	37
<b>6 合計</b>	<b>691</b>	<b>538</b>	<b>153</b>
7 投資有価証券等 ※	13	167	▲ 154

※第7次中計（2023年度～2025年度）のネット投資額4,200億円には、投資有価証券等が含まれております。

## 補足資料

### 2024年度 第3四半期実績 補足情報

- 販売数量、トッパー稼働率
- 原油生産数量、確認埋蔵量・推定埋蔵量
- セグメント別実績（前年差）
- 各事業の主要データ
- 原油価格の推移
- ガソリン輸出、国内／海外マージンの推移
- 軽油輸出、国内／海外マージンの推移
- 石油化学市況（エチレン・パラキシレン・ベンゼン・ミックスキシレン）

P. 20 - 31

---

### 2024年度通期計画（2024年5月既公表）

- 概要（前年差）
- 前提条件、感応度
- セグメント別計画（前年差）

P. 32 - 36

---

### コスモエネルギーグループの概要（ビジネス・アウトライン）

- 石油事業、石油化学事業、石油開発事業、再生可能エネルギー事業

P. 37 - 45

# 2024年度 第3四半期実績 補足情報

## 【2024年度 第3四半期実績】 販売数量、トッパー稼働率

		2024年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年比	2024年度 通期計画	前年比	
1	内需燃料油	ガソリン	5,598	5,516	101.5%	7,222	99.1%
2		灯油	1,069	1,128	94.8%	1,905	94.8%
3		軽油	4,270	4,266	100.1%	5,668	100.4%
4		A重油	1,149	1,158	99.2%	1,570	96.7%
5		四品計	12,086	12,068	100.1%	16,366	98.8%
6		ナフサ	3,262	3,453	94.5%	5,169	113.0%
7		ジェット	404	293	138.0%	485	123.5%
8		C重油	455	579	78.6%	644	86.1%
9		計	16,208	16,393	98.9%	22,726	102.0%
10	外需燃料油	中間留分輸出	47	-	-	350	356.8%
11		保税販売他	2,131	2,392	89.1%	2,684	86.1%
12		(内 ジェット)	1,499	1,481	101.2%	2,000	103.9%
13		(内 低硫黄C重油)	301	499	60.4%	631	127.2%
14		計	2,178	2,392	91.1%	3,034	94.3%
15	合計	18,386	18,785	97.9%	25,760	101.0%	

		2024年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年比
16	トッパー稼働率 (CD) (※1)	84.9%	84.8%	0.1%
17	(SD) (※1、2)	95.1%	93.9%	1.2%

(※1) 当社 (3製油所合計) の稼働率、(※2) SD : 定期整備等の影響を除いた稼働率

# 【2024年度 第3四半期実績】原油生産数量、確認埋蔵量・推定埋蔵量

## 1 原油生産数量

	2024年度 第3四半期	2023年度 第3四半期	前年差	
コスモエネルギー開発株式会社 (B/D)	38,407	36,350	2,057	105.7%

※生産数量は、アブダビ石油・合同石油開発の生産数量合計。

※各社12月決算会社（例：通期決算の場合、1-12月の合計生産量）

※コスモエネルギーグループの出資比率 … アブダビ石油64.4%、合同石油開発50.0%

## 2 原油埋蔵量評価（当社権益分）（\*1）（2023年12月31日現在）

	百万BBL
確認埋蔵量（*2）と推定埋蔵量（*3）の合計	155.0
（参考：確認+推定埋蔵量の可採年数）	約19年

注1) 当社権益分の2023年1～12月平均原油生産量  
約22千バレル/日

### （\*1）原油埋蔵量評価の結果について

当社の将来の収益へ及ぼす影響が大きいと考えられるアブダビ石油の埋蔵量につきましては、原油埋蔵量に関する独立評価会社としては世界有数の会社であるGaffney, Cline & Associates（以下、GCA）による第三者評価を受けております。同評価は、当社関連会社が独自に実施した埋蔵量の自社内部評価をGCAが確認する形で実施されております。この評価は、SPE（Society of Petroleum Engineers 石油技術者協会）のOil and Gas Reserves Committee（原油・ガス埋蔵量委員会）が作成し、WPC（World Petroleum Congress 世界石油会議）、AAPG（American Association of Petroleum Geologists 米国石油地質技術者協会）及びSPEE（Society of Petroleum Evaluation Engineers 石油評価技術協会）により検討・共同策定された基準（2007 PRMS(Petroleum Resources Management System)）に従い、実施されております。合同石油開発の埋蔵量評価に関しては、両社が独自に実施した自社評価となります。なお、原油埋蔵量評価は、当社が埋蔵量又は原油回収量を保証するものではありません。

### （\*2）確認埋蔵量とは

確認埋蔵量とは、地質学的、工学的データの解析により、ある時点以降に既知の貯留層から現状の経済条件、操業方法と規制の下で商業的に回収されることが合理的確実さをもって予想される石油の量をいいます。また、確率論的手法が用いられるならば、確認埋蔵量が回収できる確率が、90%以上なければならない、とされています。（SPE PRMS 2007年3月 定義）

### （\*3）推定埋蔵量とは

地質学的、工学的データの解析により、おそらく回収できると考えられる未確認埋蔵量をいいます。また、確率論的手法が用いられるならば、確認+推定埋蔵量が回収できる確率が、50%以上なければならない、とされています（SPE PRMS 2007年3月 定義）

# 【2024年度 第3四半期実績】セグメント別実績（前年差）

## 2024年度 第3四半期実績（前年差）

		売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫影響除き)	
		実績	前年差	実績	前年差	実績	前年差	実績	前年差
1	石油事業	18,183	216	311	▲ 225	401	▲ 200	593	78
2	石油化学事業	2,521	▲ 128	▲ 36	▲ 20	▲ 49	▲ 12	▲ 49	▲ 12
3	石油開発事業	961	120	509	91	528	35	528	35
4	再生可能エネルギー事業	87	▲ 10	▲ 4	▲ 14	▲ 0	▲ 14	▲ 0	▲ 14
5	その他・調整額	▲ 1,368	54	101	32	95	30	95	30
6	合計	20,384	252	881	▲ 136	975	▲ 161	1,167	117

## グループ会社

石油事業	コスモ石油、コスモ石油マーケティング、コスモ石油販売、コスモ石油ルブリカンツ、コスモエネルギーソリューションズ、ジクシス（持分法適用会社）、キグナス石油（持分法適用会社）ほか
石油化学事業	コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学 ほか
石油開発事業	コスモエネルギー開発、アブダビ石油、Cosmo E&P Albahriya、カタル石油開発、合同石油開発（持分法適用会社）ほか
再生可能エネルギー事業	コスモエコパワー、CSDソーラー ほか
その他	コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス ほか

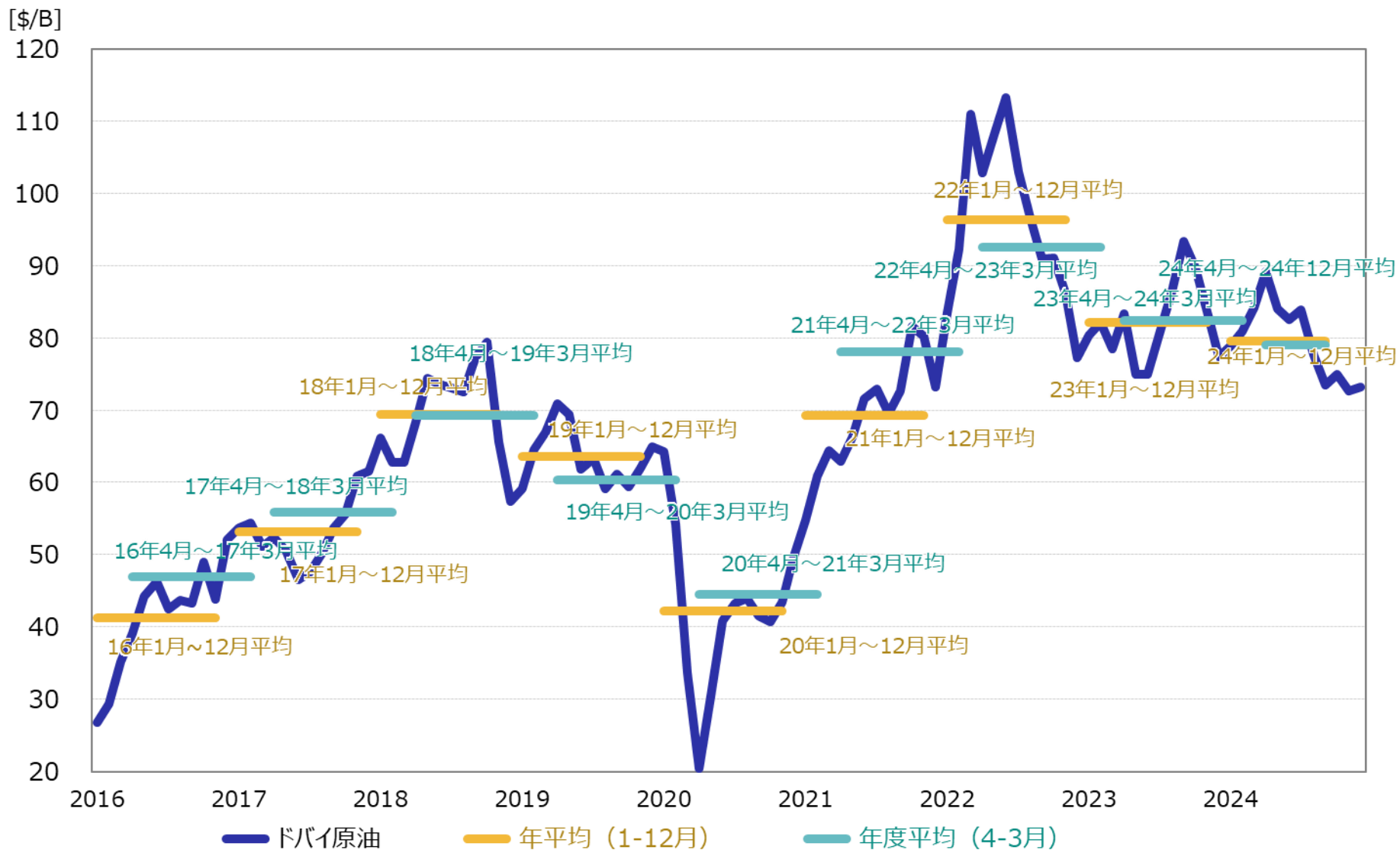


## 【2024年度 第3四半期実績】 各事業の主要データ

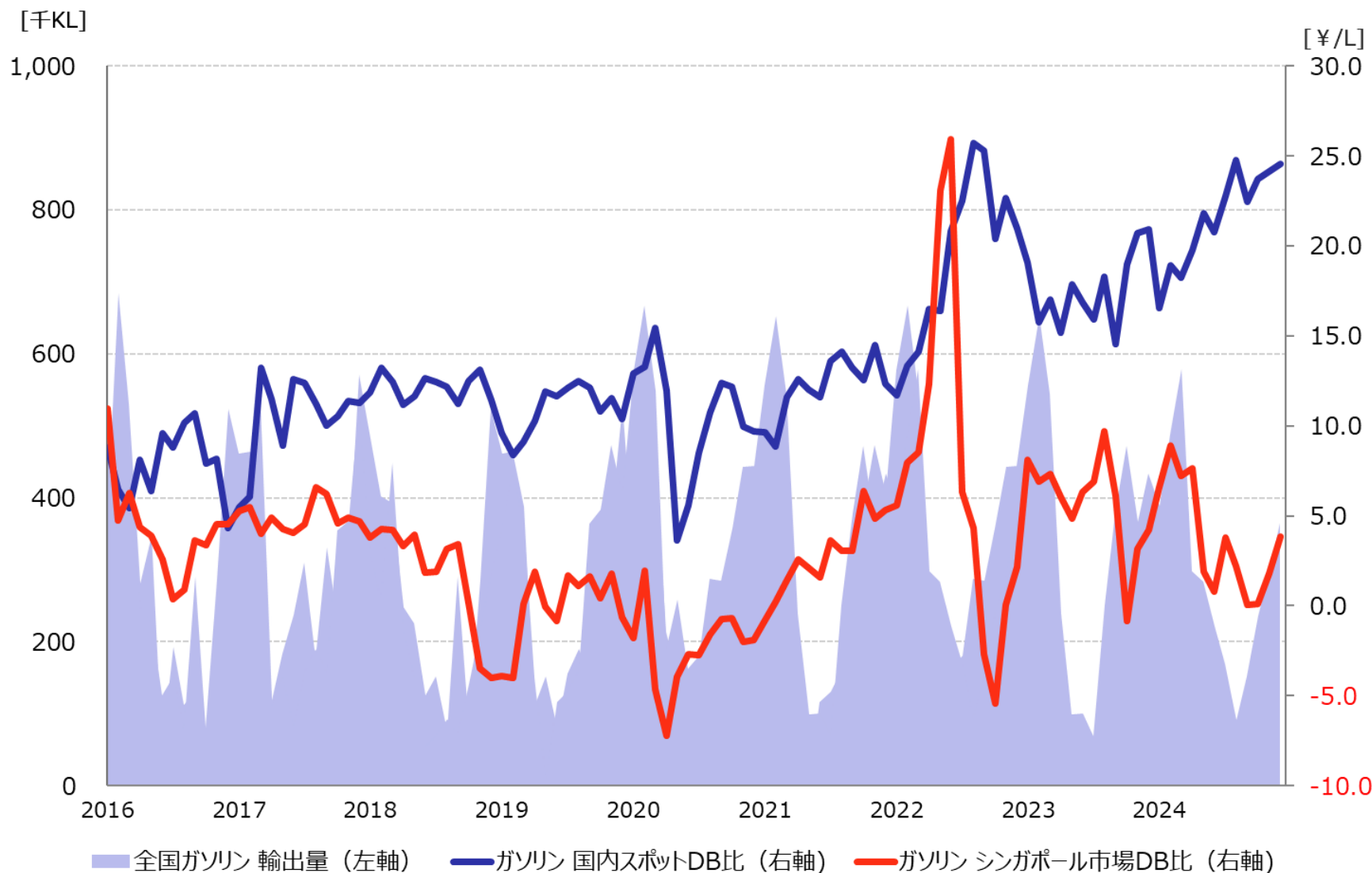
1	石油事業	<b>(1) 製油所 稼働率</b>						
			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度3Q
		トッパー（CDベース）（※1）	87.9%	84.3%	95.4%	97.8%	87.9%	84.9%
		<b>(2) SS数</b>						
			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度3Q
		販社（※2）	876	877	872	880	867	863
		特約店	1,879	1,852	1,823	1,769	1,735	1,704
		SS計（※3）	2,755	2,729	2,695	2,649	2,602	2,567
		うちセルフSS数（※3）	1,072	1,099	1,112	1,121	1,128	1,131
		<b>(3) コスモ・ザ・カード有効会員数、コスモMyカーリース累計契約台数、カーライフスクエアアプリ会員数</b>						
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度3Q		
コスモ・ザ・カード（万枚）（※3）	421	412	403	384	362	362		
コスモカーリース（台）（※3）	73,634	85,126	96,214	108,104	119,737	128,404		
カーライフスクエア（万件）（※3）	202	344	472	595	726	873		
2	石油開発事業	<b>原油生産数量</b>						
			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度3Q
		コスモエネルギー開発株式会社（B/D）（※4,5）	50,773	49,208	45,157	42,430	36,718	38,407
3	再生可能エネルギー事業	<b>風力発電設備容量</b>						
			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度3Q
		設備容量（MW）（※3）	266	261	300	247	295	283
売電量（百万kWh）	550	532	595	553	643	387		

（※1）各年度 4-3月実績 （※2）当社100%出資子会社における直営SSならびに販売店SS （※3）各年度 3月末時点 （※4）各年度 1-12月実績  
 （※5）22年度まではアブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発の合計、23年度以降はアブダビ石油、合同石油開発の合計

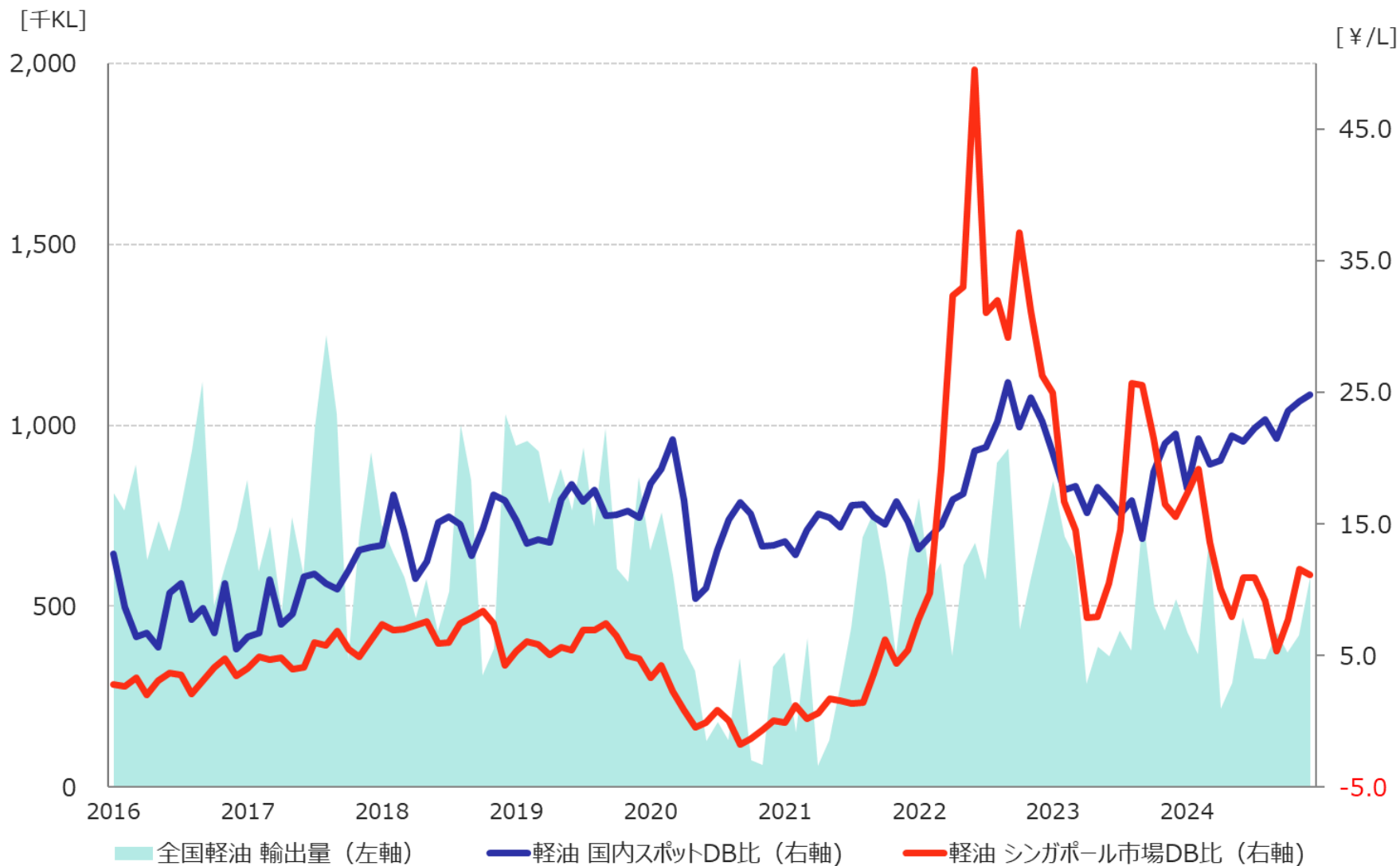
# 原油価格の推移



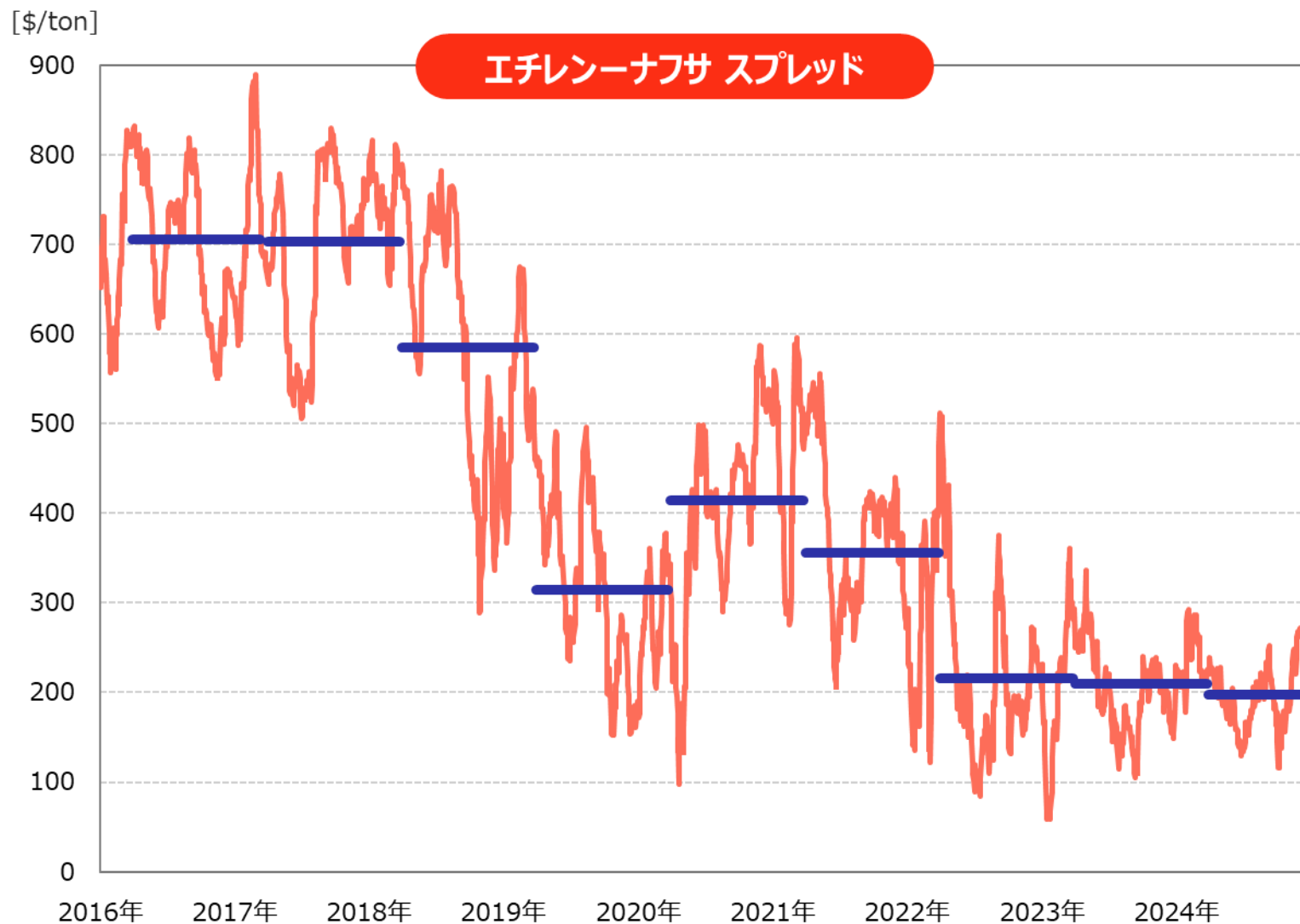
# ガソリン輸出 国内／海外マージンの推移



# 軽油輸出 国内／海外マージンの推移

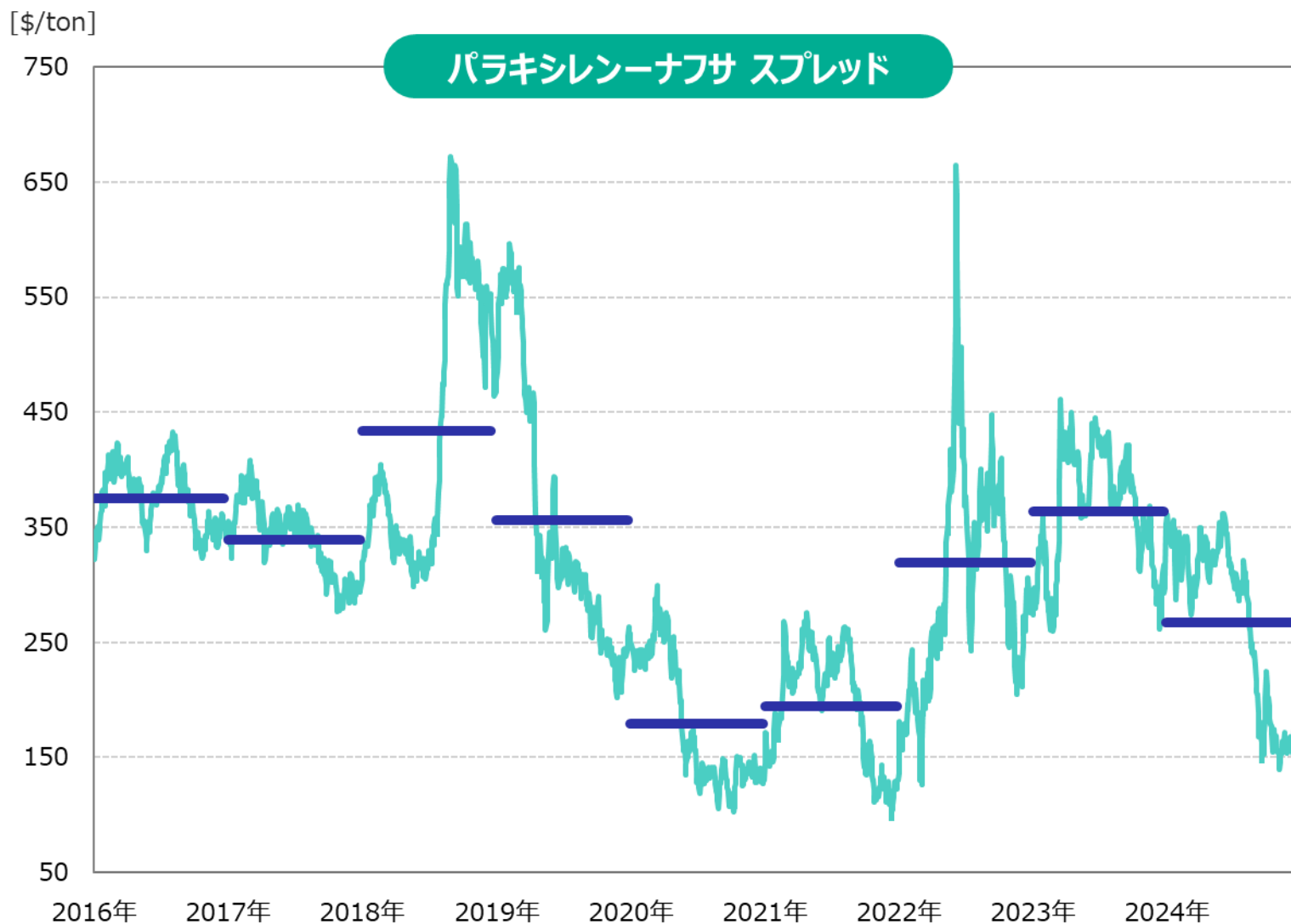


# 石油化学市況 (エチレン)



※ 横線は各年（4-3月）の平均値

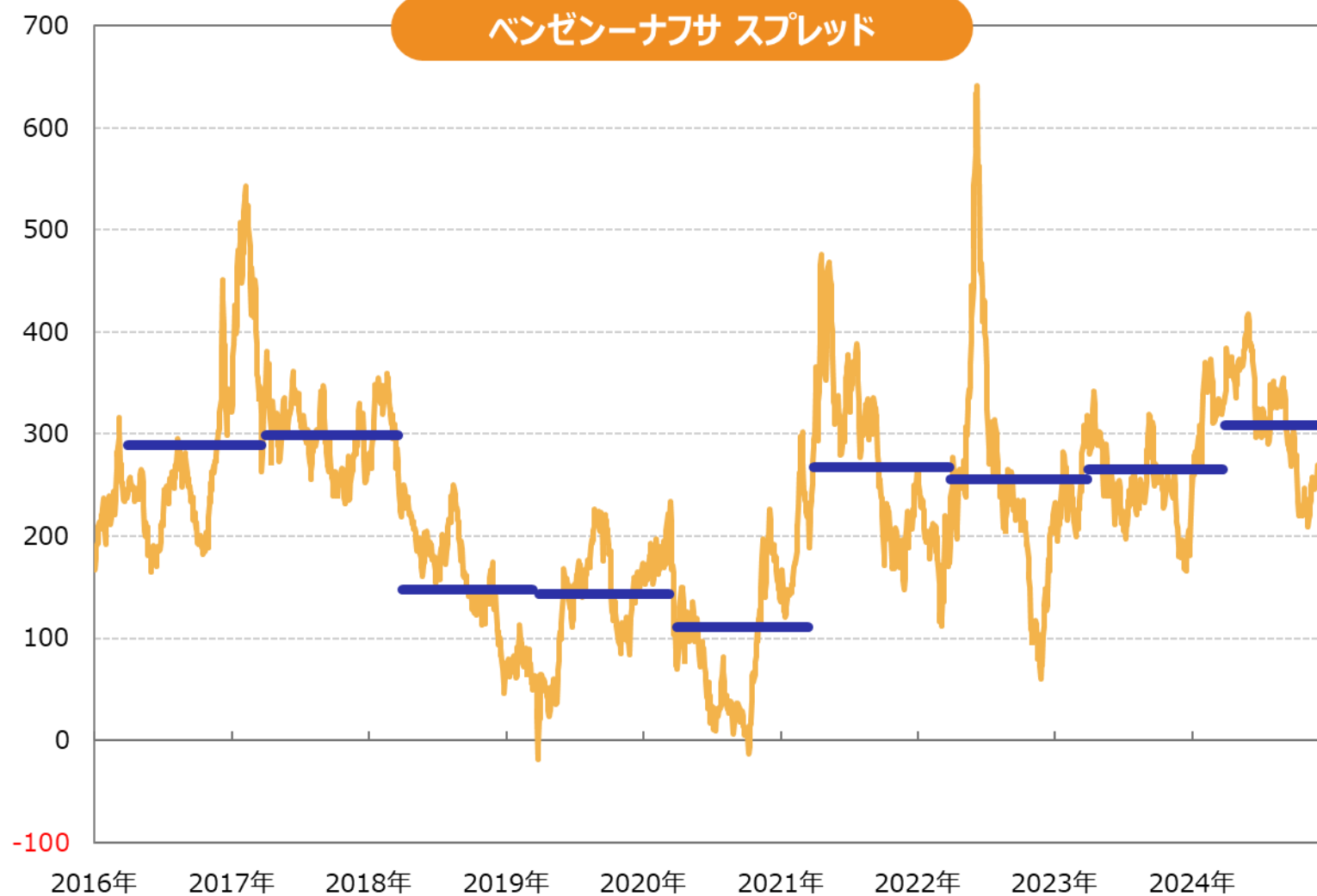
# 石油化学市況（パラキシレン）



※ 横線は各年（1-12月）の平均値

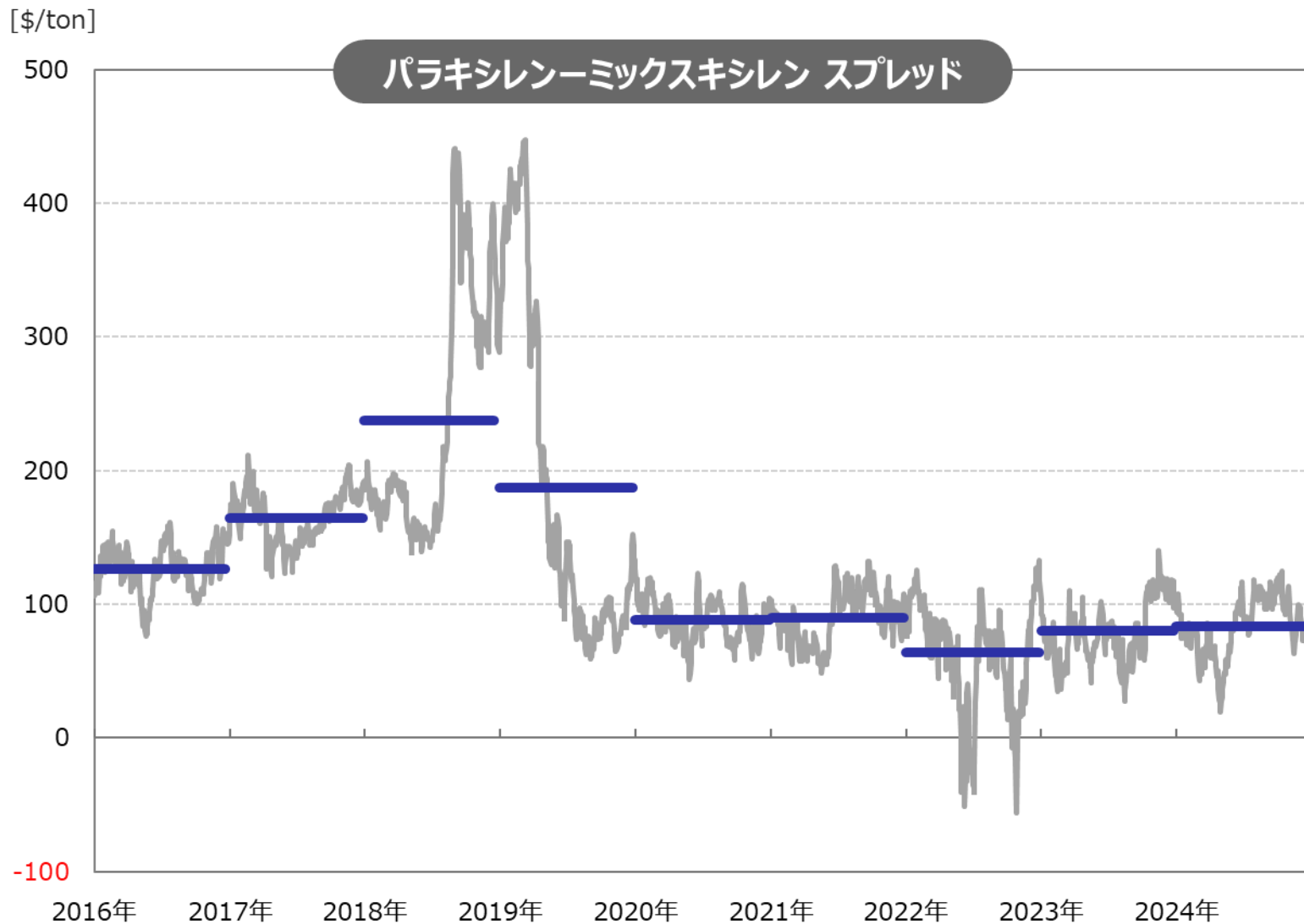
# 石油化学市況 (ベンゼン)

[\$/ton]



※ 横線は各年（4-3月）の平均値

# 石油化学市況（パラキシレンーミックスキシレン）



※ 横線は各年（1-12月）の平均値



# 2024年度通期計画の概要 (2024年5月既公表)

## 【2024年度 通期計画】概要（前年差）

単位：億円

		2024年度 通期計画		2023年度 通期実績		前年差		
		経常利益	在庫影響除き 経常利益	経常利益	在庫影響除き 経常利益	経常利益	在庫影響除き 経常利益	
1	連結	1,650	1,600	1,616	1,622	34	▲ 22	
2	セ グ メ ン ト 別	石油事業	860	810	907	913	▲ 47	▲ 103
3		石油化学事業	0		▲ 78		78	
4		石油開発事業（※1）	660		683		▲ 23	
5		再生可能エネルギー事業	20		28		▲ 8	
6		その他（※2）	110		76		34	
7	在庫影響	50		▲ 6		56		
8	親会社株主に帰属する当期純利益	790		821		▲ 31		
9	在庫影響除き当期純利益（※3）	755		824		▲ 69		

（※1）操業会社（アブダビ石油・カタール石油開発・合同石油開発）は12月決算、（※2）連結処理値を含む、（※3）在庫影響は税額相当として30%を控除のうえ計算

		2024年度 通期計画	2023年度 通期実績	前年差
10	一株あたり年間配当（予定）（※4）	330円	300円	+ 30円

（※4）2024年度 通期計画は2025年2月公表

# 【2024年度 通期計画】前提条件、感応度、定修計画

## 前提条件・感応度

■ 前提条件		2024年度 通期計画	2023年度 通期実績	前年差
1	ドバイ原油価格 (\$/B) (4-3月)	85	82	3
2	為替レート (¥/\$) (4-3月)	145	145	0
3	(参考) ドバイ原油価格 (\$/B) (1-12月) (※)	83	82	1
4	(参考) 為替レート (¥/\$) (1-12月)	146	141	5

石油開発事業の指標価格となるICEマーバン原油価格は2ヶ月前のドバイ価格を参照してアセスされるため、2ヶ月前のドバイ原油価格を参考として記載

例) 通期決算(1-12月)の場合、前年11月～当年10月のドバイ原油価格平均を記載

■ 経常利益 感応度 (通期)		原油価格 (ドバイ)	為替	
5	石油事業	在庫影響	+28億円	+17億円
6		精製用燃料費他	▲ 6億円	▲ 4億円
7		計	+22億円	+13億円
8	石油開発事業		+14億円	+10億円

※感応度は、前提より原油価格+1\$/Bあたりの影響額および為替+1円/\$あたりの影響額。期間中において原油価格、為替に変動なく一定に推移した前提で試算

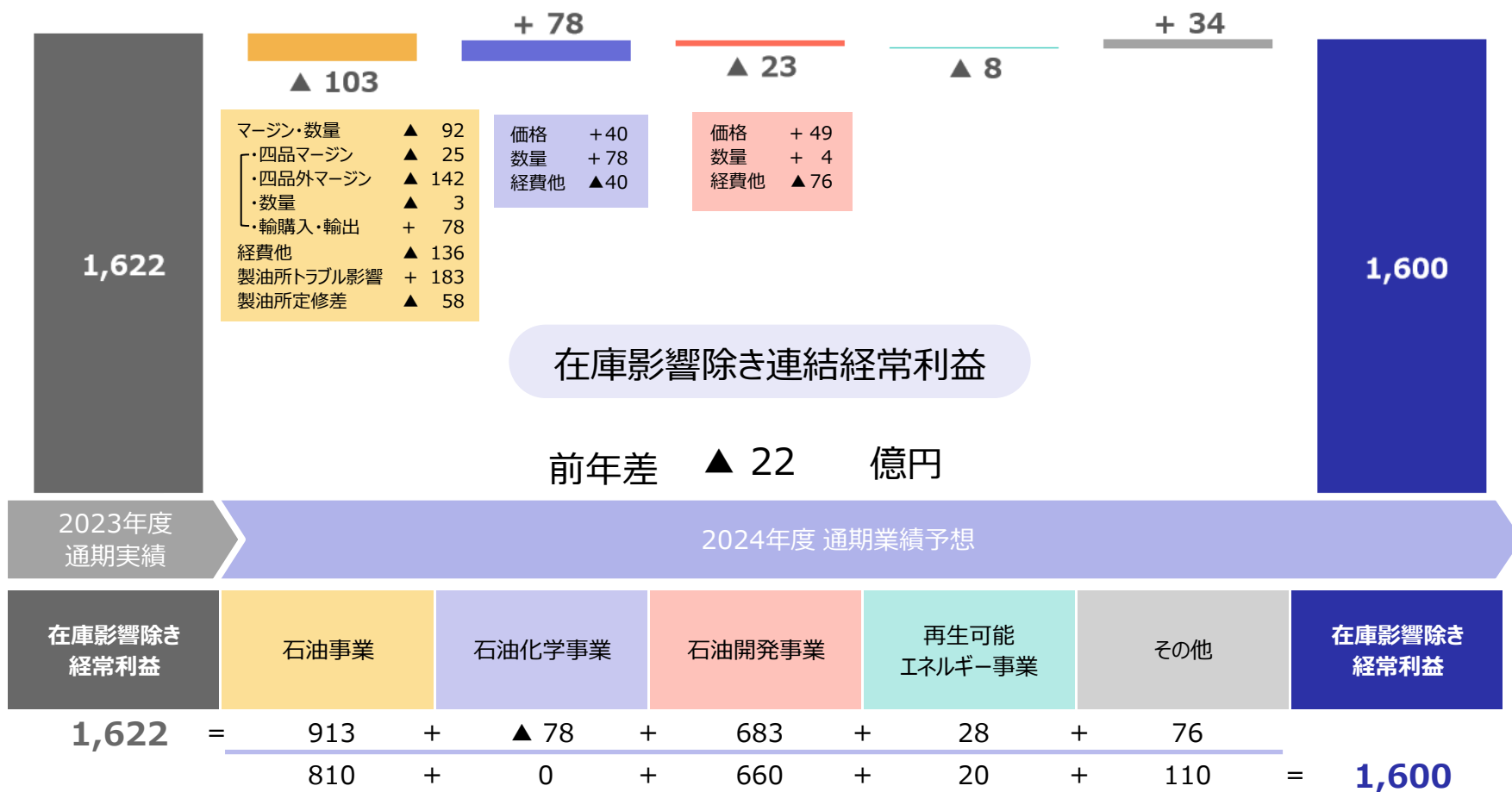
## 製油所定修計画

		2023年度				2024年度				2025年度			
		第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
石油事業	千葉製油所			●		●							
	四日市製油所							●					
	堺製油所		●										

※2025年度は堺製油所中間整備を予定

# 【2024年度 通期計画】 連結経常利益（在庫影響除き） 前年差

単位：億円



# 【2024年度 通期計画】セグメント別計画（前年差）

## 2024年度 通期計画（前年差）

単位：億円

		売上高		営業利益		経常利益		経常利益 (在庫影響除き)	
		計画	前年差	計画	前年差	計画	前年差	計画	前年差
1	石油事業	28,070	3,614	780	▲ 26	860	▲ 47	810	▲ 103
2	石油化学事業	3,990	372	10	64	0	78	0	78
3	石油開発事業	1,370	92	635	1	660	▲ 23	660	▲ 23
4	再生可能エネルギー事業	140	▲ 3	15	▲ 10	20	▲ 8	20	▲ 8
5	その他・調整額	▲ 1,570	629	100	19	110	34	110	34
6	合計	32,000	4,704	1,540	48	1,650	34	1,600	▲ 22


## グループ会社

石油事業	コスモ石油、コスモ石油マーケティング、コスモ石油販売、コスモ石油ルブリカンツ、コスモエネルギーソリューションズ、ジクシス（持分法適用会社）、キグナス石油（持分法適用会社）ほか
石油化学事業	コスモ松山石油、CMアロマ、丸善石油化学 ほか
石油開発事業	コスモエネルギー開発、アブダビ石油、Cosmo E&P Albahriya、カタール石油開発、合同石油開発（持分法適用会社）ほか
再生可能エネルギー事業	コスモエコパワー CSDソーラー ほか
その他	コスモエンジニアリング、コスモトレードアンドサービス ほか

## コスモエネルギーグループ概要等

# コスモエネルギーグループ概要

セグメント	石油精製販売事業	石油化学事業	石油開発事業	再生可能エネルギー事業	その他事業・連結処理含む	連結※2
売上高※1	28,070 億円	3,990 億円	1,370 億円	140 億円	▲ 1,570 億円	32,000 億円
経常利益※1	860 億円	0 億円	660 億円	20 億円	110 億円	1,650 億円
経常利益※1 (在庫影響除き)	810 億円	0 億円	660 億円	20 億円	110 億円	1,600 億円

主な資産	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原油処理能力※5、6 40万バレル/日 (国内シェア 12.4%)</li> <li>●国内販売量※3 内需燃料油 22,280千KL</li> <li>●国内SS数※7 2,567ヶ所</li> <li>●コスモ・ザ・カード会員数※7 362万枚</li> <li>●カーライフスクエアアプリ※7 873万件</li> <li>●コスモMyカーリース※7 累計契約台数 128,404台</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オレフィン製品 生産能力※7 エチレン 129万t/年</li> <li>●アロマ製品 生産能力※7 ベンゼン 48.5万t/年 ミックスキシレン 61.8万t/年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パートナーシップ 約50年にわたる産油国との 強固な信頼関係</li> <li>●オペレーターシップ (自社操業) 中東地域において日系企業の オペレーター会社としては最大規模</li> <li>●原油生産量※3 約3.7万バレル/日 (原油処理能力比 約9%)</li> <li>●原油埋蔵量 (確認・推定) ※4 155.0百万バレル (約19年分の供給量相当)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●風力発電設備容量※4 310MW (国内第3位/国内シェア6%)</li> <li>●太陽光発電能力※5 24MW</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業認知率 96%</li> </ul>  <p>※外部調査会社による全国一般生活者 16~69歳の男女2,000名への調査 (2024年8月時点)</p>
------	---	---	--	--	---

グループ会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コスモ石油</li> <li>●コスモ石油マーケティング</li> <li>●コスモ石油販売</li> <li>●コスモ石油ルブリカンツ</li> <li>●コスモエネルギーソリューションズ</li> <li>●ジクシス (持分法適用会社)</li> <li>●キグナス石油 (持分法適用会社)</li> </ul> <p>ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●丸善石油化学 (千葉/四日市)</li> <li>●コスモ松山石油</li> <li>●CMアロマ (千葉)</li> </ul> <p>ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コスモエネルギー開発</li> <li>●アブダビ石油 (UAE)</li> <li>●カタール石油開発 (カタール)</li> <li>●合同石油開発 (UAE/カタール)</li> <li>●Cosmo E&amp;P Albahriya (UAE)</li> </ul> <p>ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コスモエコパワー (風力発電)</li> <li>●CSDソーラー (太陽光)</li> </ul> <p>ほか</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コスモエンジニアリング</li> <li>●コスモトレードアンドサービス</li> </ul> <p>ほか</p>
--------	--	---	--	--	---

(※1) 2024年度計画 (※2) 連結処理を含む (※3) 2023年度実績 (※4) 2023年12月31日時点 (※5) 2024年3月31日時点  
(※6) 事業提携に基づく出光興産グループからの3.7万BD相当の製品・半製品の供給を含む (※7) 2024年12月31日時点

# 【石油事業】概要

- 大都市圏に存在する3製油所体制にて安全操業・安定供給を実施
- 坂出製油所の閉鎖（2013年度）、キグナス石油への燃料油供給開始（2019年度）により、当社は販売に対して生産が少ない「ショートポジション」を確立
- 製油所高稼働の維持により、石油事業を中心とした稼ぐ力が格段に向上

## 製油所概要

### 原油処理能力

40.0万バレル/日

※ 事業提携に基づく出光興産グループ（昭和四日市石油）からの3.7万BD相当の製品、半製品の供給を含む

#### 四日市製油所

8.6万バレル/日

- 出光興産グループ（昭和四日市石油）と事業提携

#### 千葉製油所

17.7万バレル/日

ENEOS千葉製油所とコスモ石油千葉製油所を結ぶパイプライン完成（2018年～）

#### 堺製油所

10.0万バレル/日

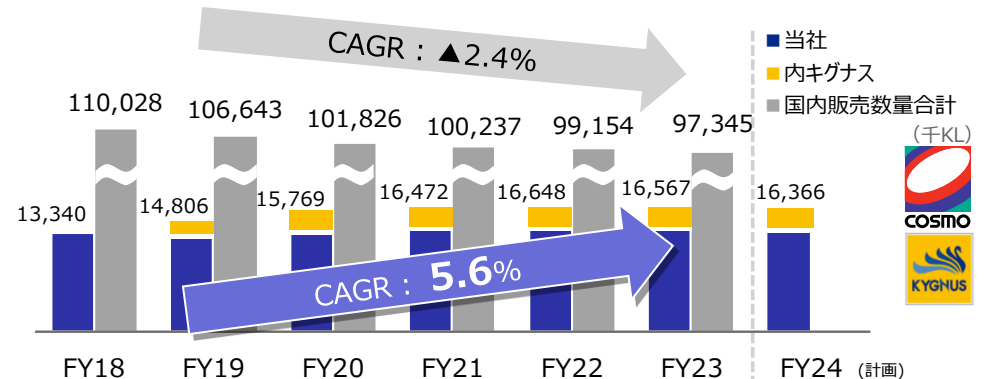
#### 2次装置投資による競争力強化

- 2010年コーカー稼働開始
- 製品付加価値向上

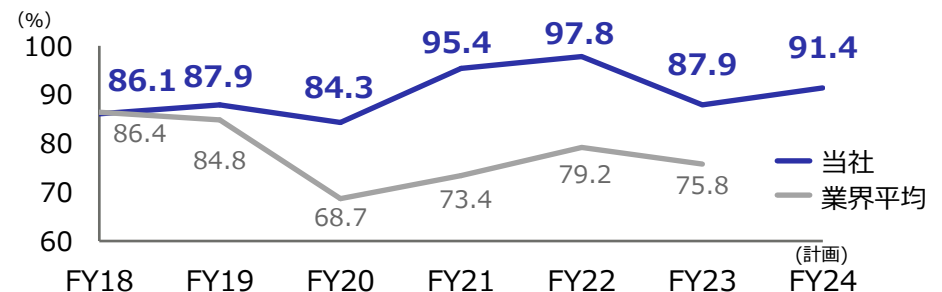
IMO対応に伴いコーカー能力を増強（2019年10月）

29,000→**31,000**バレル/日

## 石油製品需要とコスモ販売数量の推移



## 製油所高稼働の維持





# 【石油事業】製油所高稼働・高効率操業に向けた取り組み

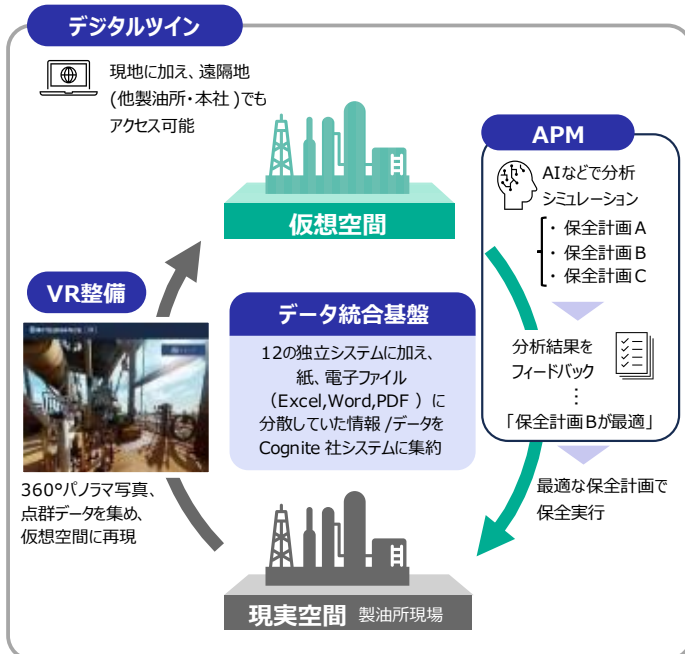
- CASH創出の源泉は製油所高稼働。6次中計において製油所高稼働を実現した結果、稼ぐ力は格段に成長
- 製油所の高稼働に向け、①計画外停止（トラブル）の削減、②計画停止（定期整備）の短縮に着手
- OMS<sup>(※1)</sup>仕組み強化や堺製油所のA認定<sup>(※2)</sup>取得により安全安定操業の水準を向上させることに加え、DX強化(APM範囲拡大、デジタルツイン導入)に取り組む

(※1) OMS(Operations Management System):「あるべき姿(世界トップレベルの安全安定操業)」と現状のギャップを洗い出し、「規則・マニュアル化」、

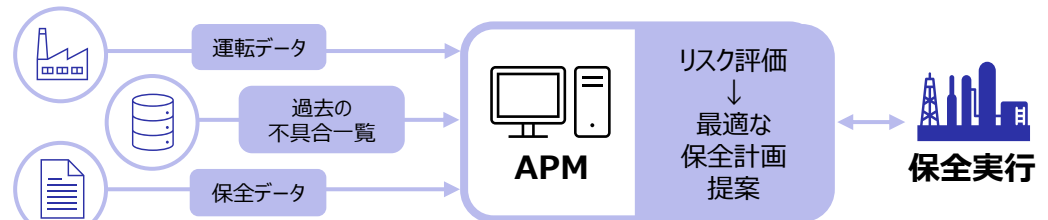
「教育・訓練」、「定着・実践」、「継続的改善」を繰り返すことで、「あるべき姿」をめざす操業マネジメントシステム。

(※2) A認定:従来のスーパー認定制度に、テクノロジー活用やサイバーセキュリティの要件などが追加された認定制度(正式名称:認定高度保安実施者制度)。

## DX強化の取り組み



## APM (Asset Performance Management)



**1**

分析・改善  
予見性向上

- APMにて膨大な保全データ・運転データをタイムリーに連携
- 運転・保全データを自社基準及び世界標準の技術情報に照合し、寿命評価精度を向上

**2**

リスク特定・統制  
網羅性向上

- 全設備(23万点)を一元管理できる(分散管理からの脱却)
- APMプロセスに基づきリスク評価し、優先順位付け(属人性が排除され、定量的・正確に評価できる)

**3**

戦略策定  
管理性向上

- リスクが高い順に優先順位付けされるため、高リスク案件から保全費を配賦  
⇒ APMの機能を駆使し、設備信頼性向上(不具合防止)と保全費適正化を両立

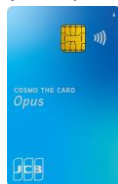
## 【石油事業】 データサイエンスを用いた効率的販売

- コスモ・ザ・カードやアプリ会員データ等、豊富な顧客データを保有
- 自社の豊富な顧客データに加え、異業種パートナーとデータ連携を行い、当社SSシェア以上の規模の顧客と繋がる事が可能
- 充実した顧客基盤(データ)を基に、プロファイリング、分析、発信を高レベルで実施する事が可能

### 豊富な顧客データ



アプリ会員数  
**873**万DL



コスモ・ザ・カード会員数  
**362**万枚



### 異業種パートナーとのデータ連携

NTT docomo



Rakuten



イオンフィナンシャルサービス



### 自社で蓄積してきた基本データに加え異業種パートナーの外部データを連携



**Customer  
Data  
Platform**

- データサイエンスを用いて顧客をセグメント分類し行動をシナリオ化
- 個人単位での訴求が明確化。自動的にシナリオに沿って最適なタイミング・チャネルでの訴求を行い、購買率の向上につなげる
- 燃料油だけでなくMyカーリースやコミット車検のほかコスモでんき等多岐にわたり訴求を進める

# 【石油化学事業】基礎化学品概要

- 首都圏近接のコンビナート立地と国内最大規模のエチレン生産能力を基盤としたコスト競争力
- 京葉地区でエチレン生産最適化の検討を開始、稼働率向上と固定費削減で収益最大化を追求

## 当社グループの生産体制・特徴

### 丸善石油化学（千葉工場）

- 世界最大級の京葉コンビナート内に立地
- 国内最大規模のエチレン生産能力
- 競争力の高い装置を高稼働させる
- 石油精製(コスモ石油)とのシナジー追求

### CMアロマ

- ミックスキシレンを製造

### 四日市製油所 丸善石油化学（四日市工場）

### コスモ松山石油

- ベンゼン・トルエン・キシレンなどを製造

(2024年11月12日時点)

		生産会社	生産能力
オレフィン系	エチレン	丸善石油化学	※129万t/年
	アロマ系	ベンゼン	丸善石油化学
コスモ松山石油			9万t/年
計		48.5万t/年	
ミックスキシレン		コスモ石油	30万t/年
	CMアロマ	27万t/年	
	コスモ松山石油	4.8万t/年	
		計	61.8万t/年
		アロマ合計	110万t/年

※京葉エチレン（丸善石油化学が55%を出資する連結子会社）の生産能力を含む

# 【石油化学事業】化成品、機能化学品概要

- 世界トップクラスのMEK生産能力（17万t/年）を保有。コスト競争力が高く、国内メーカーへの供給のみならず世界各国への輸出を展開
- 半導体の製造工程で使用する機能化学品のフォトレジスト用樹脂において丸善石油化学は世界トップクラスのシェアを誇る
- 半導体市場は5G通信、IoT、人工知能の普及、ビッグデータやクラウドの活用拡大等により、中長期的にはさらなる市場の拡大が期待
- フォトレジスト用樹脂は、開発型受注生産のカスタムメイド製品。代替製品が無く、高度な品質管理が要求されるため、参入障壁が高い

## 化成品



  
ナフサ

  
ブチレン

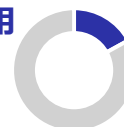
  
MEK

- 塗料溶剤
- 印刷インキ
- 接着剤

## 機能化学品

### フォトレジスト用 ポリマーシェア

■ 丸善石油化学



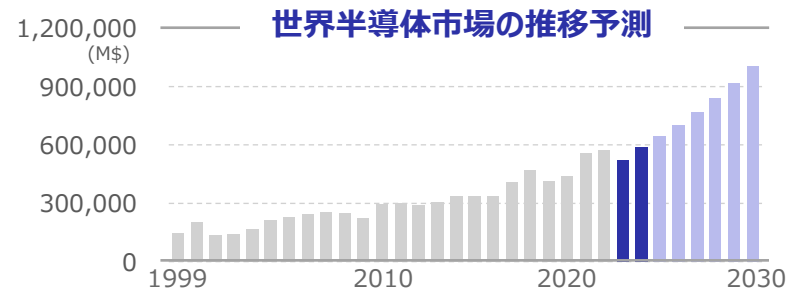
KrF用ポリマー  
世界シェア（推定）



ArF用ポリマー  
世界シェア（推定）



EUV用ポリマー  
世界シェア（推定）






※世界半導体市場統計（WSTS）を参考に当社グループにて作成

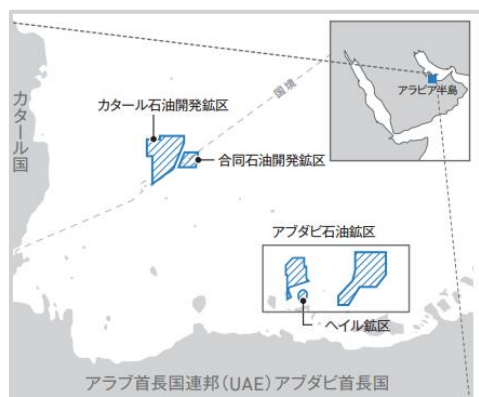
# 【石油開発事業】概要

- 約50年の安定生産を基盤としたアブダビとの信頼関係をベースに、低リスク・低コスト開発を実現
- アブダビ石油は2012年の権益延長（30年）と共に、既存3油田と同規模のヘイル鉦区を取得
- カタール石油開発は2022年12月に新契約を締結。オペレーターとして操業を継続

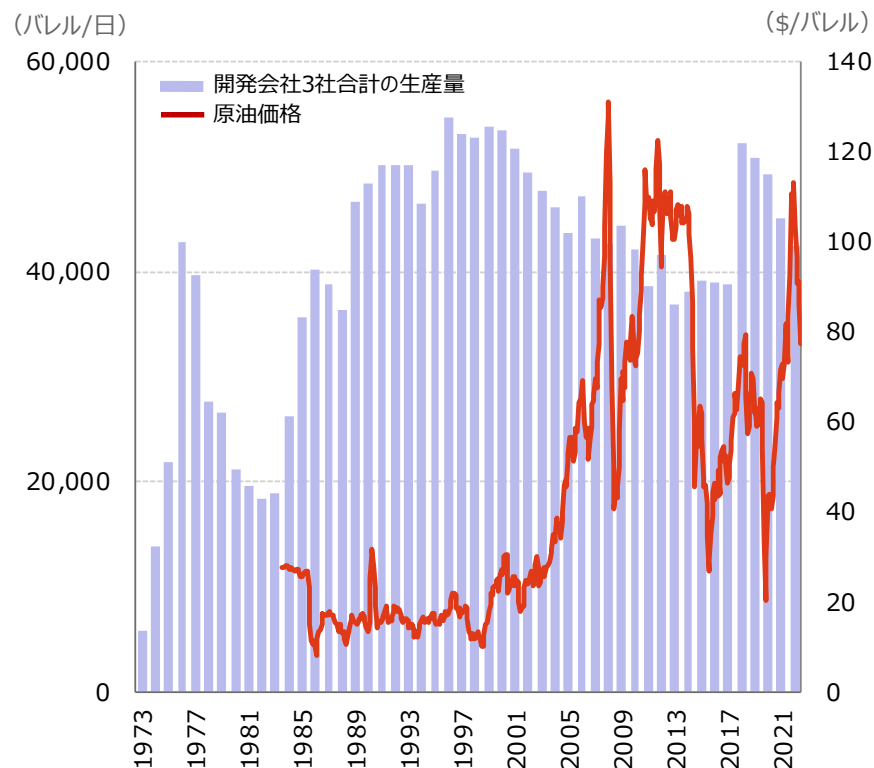
## コスモエネルギーグループの石油開発部門

	ADOC	QPD	UPD
所在国	 (UAE)	 (カタール)	 (UAE) (カタール)
当社保有割合	64.4%	100%	50%
設立年	1968	1997	1970

## コスモエネルギーグループの鉦区



## コスモエネルギーグループの原油生産量

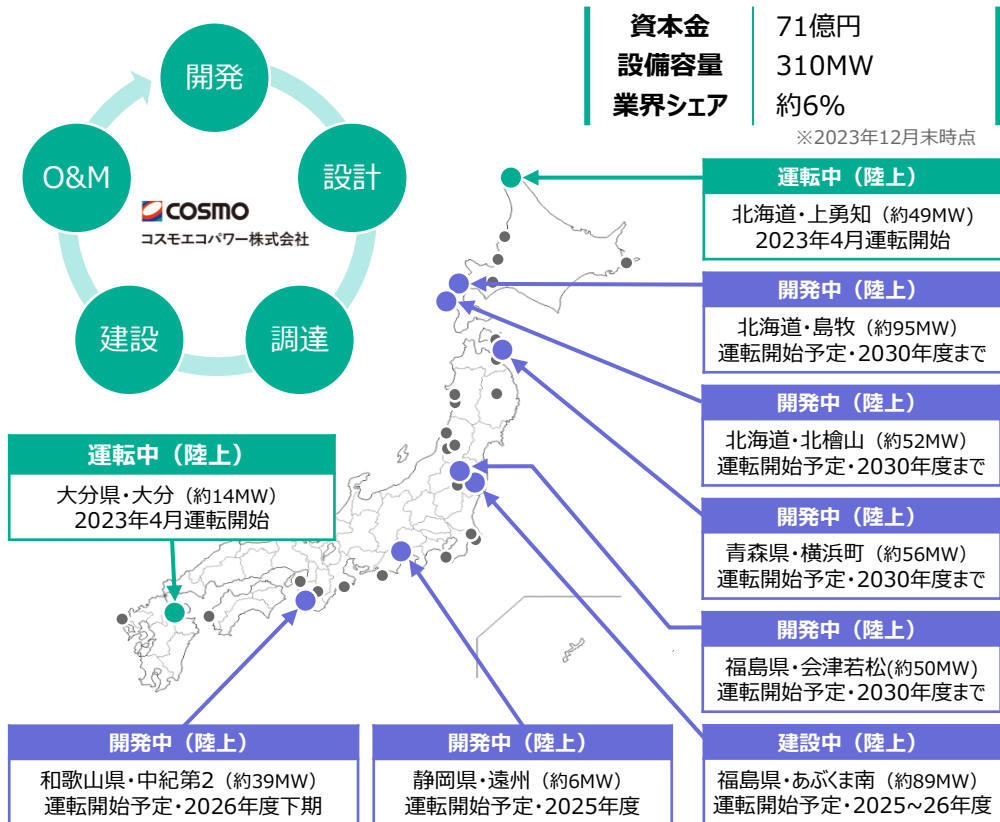


(※) 2022年度までは、3社合計（アブダビ石油、合同石油開発、カタール石油開発）。  
2023年度以降は2社合計（アブダビ石油、合同石油開発）

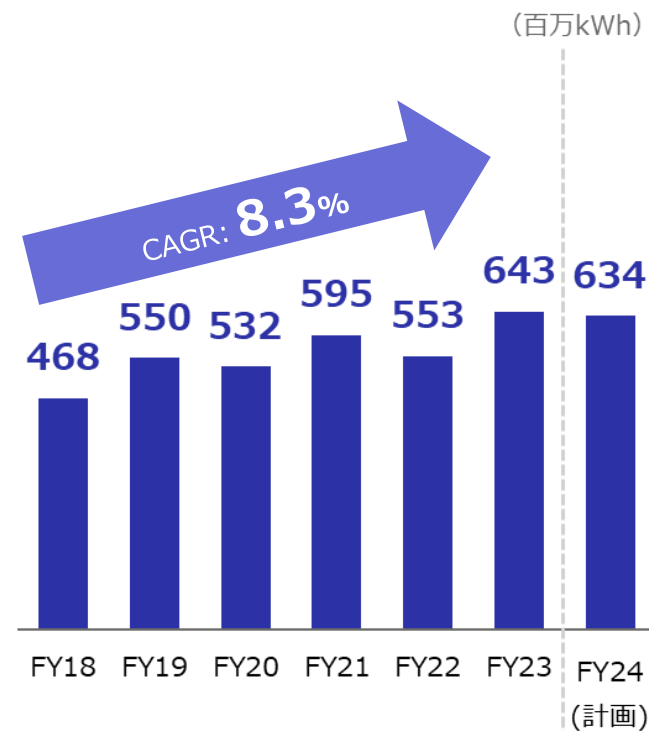
# 【再生可能エネルギー事業】概要

- 風力発電事業（1997年創業）のパイオニアであるエコ・パワー社(現コスモエコパワー)を2010年にグループ化
- 開発、建設、運営、メンテナンスをグループ内で実施する事で高いレベルの利用可能率（90%以上）を実現
- 陸上サイトの拡大に加え、洋上サイトプロジェクトへの参画など、長期的な事業拡大をめざす

## コスモエコパワー社概要



## 売電量推移



## 将来の見通しに関する記述についての注意事項

本書の記述及び記載された情報は、「将来の見通しに関する情報」（準拠する日本の証券法における意義の範囲内）にあたります。かかる記述や情報（以下、合わせて「将来の見通しに関する記述」）は、将来の出来事や当社の将来の業績、事業見通しあるいは事業機会に関連するものです。将来の見通しに関する記述は、将来の業績予想、未確定の推定量及び経営者がおいた前提に基づく、埋蔵量・資源量の評価、将来の生産水準、将来の設備投資や探査・開発活動への設備投資配分、将来の掘削・その他探査・開発活動、最終的な埋蔵量・資源量の回収、特定鉱区の探査・開発・予想生産能力への到達時期などに関する記述を含みますが、これらに限定されるものではありません。

過去の事実以外のあらゆる記述が将来の見通しに関する記述になる可能性があります。確認及び推定埋蔵量・資源量の評価に関する記述も将来の見通しに関する記述の対象となり、その埋蔵量・資源量について経済的に開発が可能であるという特定の前提に基づく結論を反映しているとみなされる可能性があります。予想、期待、考え、計画、予測、目標、前提、将来の出来事や業績に関する議論について示す・関するあらゆる記述（「目指す」、「想定する」、「計画する」、「継続する」、「予測する」、「期待する」、「可能性がある」、「するだろう」、「予想する」、「予見する」、「潜在的な」、「狙う」、「意図する」、「ありうる」、「しかねない」、「するはずだ」、「思う」等の言葉や言い回し、その他類似する表現が使われることが多いですが、必ず使われるわけではありません）は、過去の事実の記述ではなく、「将来の見通しに関する記述」である可能性があります。将来の見通しに関する記述には、かかる将来の見通しに関する記述で予想されたものとは大きく異なる実際の結果や出来事を引き起こす可能性がある既知及び未知のリスク、不確実性並びにその他要因を伴います。

これらの将来の見通しに関する記述に反映された期待は合理的なものであると当社は考えますが、これらの期待が正しいとの保証はなく、このような将来の見通しに関する記述に過度に依拠すべきではありません。適用法令により義務付けられている場合を除き、当社はこれらの将来の見通しに関する記述を更新するつもりはなく、またその義務を一切負いません。

これらの将来の見通しに関する記述は、とりわけ、原油価格の変動、探査・開発活動の結果、付保されていないリスク、規制の変更、権原上の瑕疵、資材や設備の有無、政府その他の規制承認等の適時性、設備の実際の稼働、合理的な条件での資金調達の有無、仕様や期待に関連する外部サービス提供者、設備及びプロセスの有無、並びに操業における予期せぬ環境的な影響を含む様々な事項に関するリスクと不確実性を伴います。実際の結果は、かかる将来の見通しに関する記述に明示あるいは黙示された内容と大きく異なる場合があります。